

過去30年間の地震を振り返って

6月18日の山形県沖にて発生した地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

トグル通信はおかげさまで100号を迎えることが出来ました。

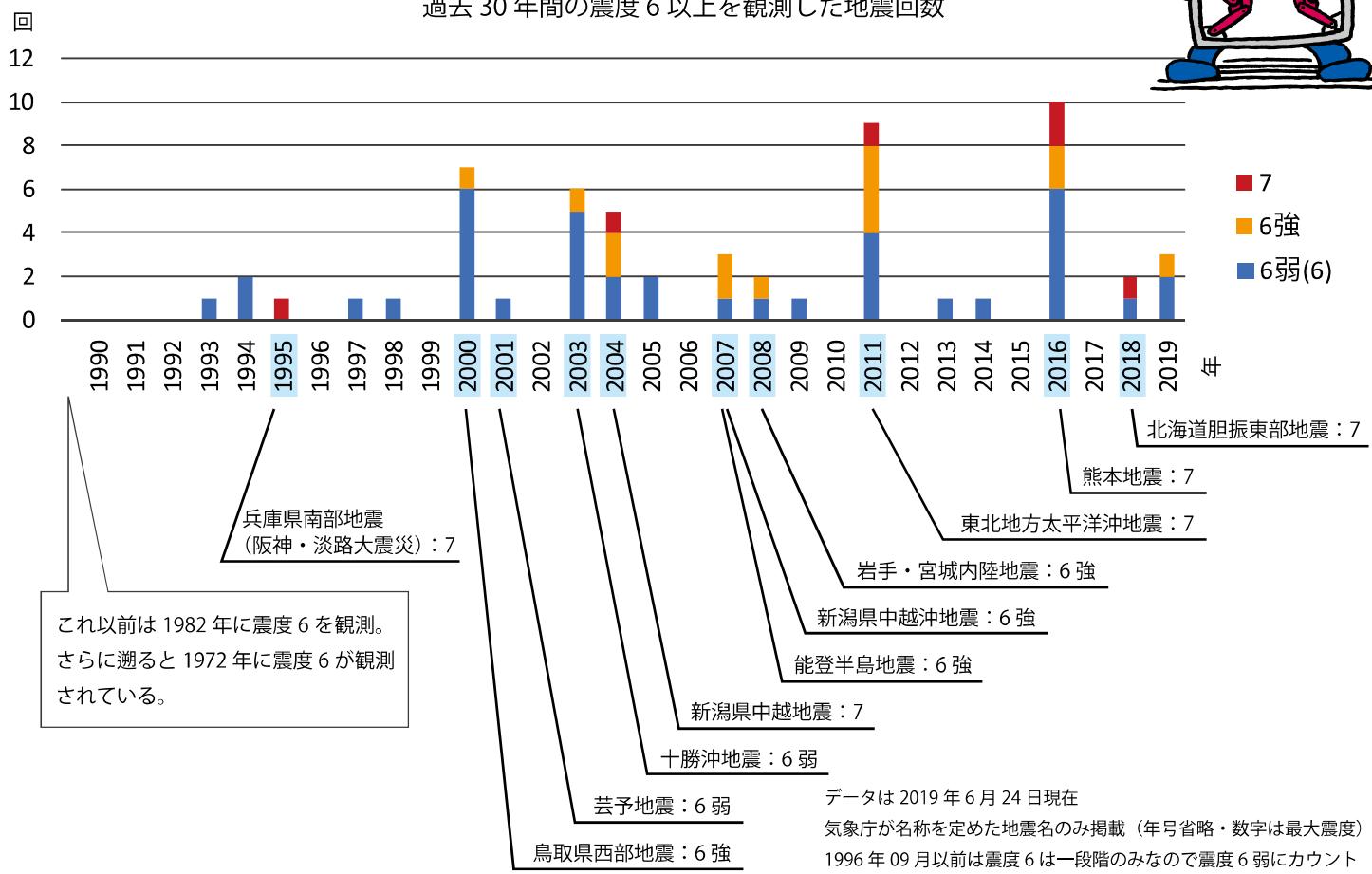
過去の地震を振り返り、耐震化について今一度考えてみたいと思います。

下記グラフは、1990年～2019年までの震度6以上の地震の回数を表したものです。

2000年以降大きな地震が頻発していることがわかります。なお1992年以前に震度6以上の地震が観測されたのは1982年です。



過去30年間の震度6以上を観測した地震回数



通常の耐震設計では1回の大きな地震に対してしか考えられていません。

特に記憶に新しい東北地方太平洋沖地震や熊本地震では余震が続き、その余震も震度6以上の大きな揺れを伴うものでした。（トグル通信73、92号参照）

また南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

さらに2019年2月、政府の地震調査委員会が次の宮城県沖地震が30年以内に発生する確率を「50%程度」と公表しました。

先日6/18にも山形県沖で震度6強の地震が発生したばかりで今後も大きな揺れに注意が必要とのことです。

繰り返しの地震への備えが重要です。お気軽にご相談ください。

トグル制震事業部

TEL：0120-109-686



- 気象庁HP引用、参考 (<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>)
 - ・震度データベース検索
 - ・日本付近で発生した主な被害地震（平成8年以降）
 - ・過去の地震津波災害
 - ・南海トラフ地震に関する情報
 - 仙台市HP参考 (<http://www.city.sendai.jp/index.html>)
 - ・宮城県沖地震等の発生確率
- 上記をもとに株式会社E&CSが加工して作成。